

令和 4 年度

三豊市病院事業会計決算審査意見書

三豊市監査委員

三 監 第 75 号  
令和5年8月17日

三豊市長 山下 昭史 様

三豊市監査委員 片桐 正文

三豊市監査委員 詫間 政司

令和4年度三豊市病院事業会計決算審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により審査に付された、令和4年度三豊市病院事業会計決算とその付属書類を審査したので、次のとおり意見を提出する。

# 病院事業会計

# 目 次

第1	審査の対象	1
第2	審査の期間	1
第3	審査の方法及び着眼点	1
第4	審査の結果	1
第5	審査の概要	2
I みとよ市民病院事業会計		
1	事業の概要	2
2	予算の執行状況	4
3	経営成績	6
4	財政状況	11
II 西香川病院事業会計		
1	事業の概要	15
2	予算の執行状況	17
3	経営成績	19
4	財政状況	22
第6	まとめ	25

## 決 算 審 査 資 料

繰越事業の状況	27
---------	----

### 《 凡 例 》

- 1：各表中等に表示した数値は、原数値の表示数値未満を四捨五入して表示しているため、合計と内訳の計が一致しない場合がある。
- 2：増減率は、原数値により算出(表示数値未満を四捨五入)したため、合計と内訳の計が一致しない場合がある。
- 3：符号の用法は、次のとおりとする。
  - 「0.0」・・・該当数値はあるが表示数値に満たないもの
  - 「-」・・・該当数値がないもの、算出不能又は無意味なもの
  - 「△」・・・負数又は減数
  - 「皆増」・・・前年度に数値がなく全額増加したもの
  - 「皆減」・・・当年度に数値がなく全額減少したもの

# 令和 4 年度三豊市病院事業会計決算審査意見

## 第 1 審査の対象

令和 4 年度三豊市病院事業会計決算

## 第 2 審査の期間

令和 5 年 7 月 7 日から令和 5 年 8 月 4 日まで

## 第 3 審査の方法及び着眼点

審査にあたっては、「三豊市監査基準」（令和 2 年 4 月 1 日監査委員告示第 4 号、以下「監査基準」という。）に準拠し、審査に付された三豊市病院事業会計決算書、財務諸表及び決算付属書類について、地方公営企業法その他関係法令に準拠して作成されているか、関係諸帳簿及び証拠書類との照合を行った。また、関係職員の説明を聴取し、処理の適法性、計数の正確性、事業経営の健全性、予算執行状況の適正性に主眼を置いて審査を実施した。

## 第 4 審査の結果

審査に付された三豊市病院事業会計決算書、財務諸表及び決算付属書類について、監査基準第 21 条第 1 項第 1 号から第 6 号までの記載事項のとおり審査した限りにおいて、いずれも関係法令等に準拠して作成されており、計数についても正確で経営成績及び財政状況、予算執行状況は、おおむね適正に表示されていると認められた。

## 第5 審査の概要

### I みとよ市民病院事業会計

#### 1 事業の概要

令和4年5月に旧永康病院からみとよ市民病院に新築移転し、病院運営に取り組んでいる。

##### (1) 業務の状況

・入院外来患者数

(単位：人)

区 分		令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	前年度比較	前年度 対 比
入 院	延 人 数	32,383	29,134	26,712	26,441	3,249	111.2%
	1 日 平 均	88.7	79.8	73.2	72.2	8.9	111.2%
外 来	延 人 数	56,761	38,808	36,489	34,366	17,953	146.3%
	1 日 平 均	231.7	159.0	148.3	140.8	72.7	145.7%

病院施設の状況は、診療科 9科、病床数 122床で、入院患者延人数は前年度と比較して3,249人(11.2%)増加、外来患者延人数も 1万7,953人(46.3%)増加している。

・診療科別入院患者数

(単位：人)

診療科	年度	令和4年度		令和3年度		前年度比較	前 年 度
		延患者数	構成比率	延患者数	構成比率	延患者数	対 比
一 般		13,910	42.9%	12,731	43.7%	1,179	109.3%
精 神 科		5,464	16.9%	6,459	22.2%	△ 995	84.6%
療 養 ( 医 療 )		13,009	40.2%	9,944	34.1%	3,065	130.8%
療 養 ( 介 護 )		0	—	0	—	0	—
合 計		32,383	100.0%	29,134	100.0%	3,249	111.2%

入院患者数を診療科別に前年度と比較すると、一般で 1,179人(9.3%)増加、精神科で 995人(15.4%)減少、療養(医療)で 3,065人(30.8%)増加している。全体では前年度に比べ、3,249人(11.2%)の増加となっている。

・診療科別外来患者数

(単位：人)

診療科	年度	令和4年度		令和3年度		前年度比較	
		延患者数	構成比率	延患者数	構成比率	延患者数	前年度対比
内科		23,685	41.7%	15,686	40.5%	7,999	151.0%
外科		415	0.7%	407	1.0%	8	102.0%
整形外科		14,666	25.8%	11,195	28.8%	3,471	131.0%
精神科 心療内科		13,314	23.5%	9,347	24.1%	3,967	142.4%
耳鼻咽喉科		2,228	3.9%	1,738	4.5%	490	128.2%
泌尿器科		1,576	2.8%	—	—	1,576	—
脳神経外科		143	0.3%	—	—	143	—
眼科		422	0.8%	435	1.1%	△ 13	97.0%
小児科		312	0.5%	—	—	312	—
合計		56,761	100.0%	38,808	100.0%	17,953	146.3%

※令和3年度の泌尿器科、脳神経外科、小児科の外来患者数は内科に算入されている。

当年度の年間外来患者数は、前年度に比べ 1万7,953人(46.3%)増加している。  
また、構成比率では内科が 41.7%、整形外科が 25.8%、精神科/心療内科が23.5%で全体の9割を占めている。

・病床利用状況

(単位：人)

区分	令和4年度		令和3年度		前年度比較	
	1日平均患者数	病床利用率	1日平均患者数	病床利用率	1日平均患者数	病床利用率
一般病床 46床	38.1	82.8%	34.9	69.8%	3.2	13.0ポイント
療養病床 46床	35.6	77.4%	27.2	56.7%	8.4	20.7ポイント
精神病床 30床	15.0	50.0%	17.7	30.0%	△ 2.7	20.0ポイント
合計 122床	88.7	72.7%	79.8	50.8%	8.9	21.9ポイント

※令和3年度の病床数は一般病床50床、療養病床48床、精神病床59床の計157床である。

病床利用率は、前年度に比べ全ての病床で増加している。全体では21.9ポイント増加し、1日平均患者数は 8.9人増加している。

## 2 予算の執行状況

### (1) 収益的収入及び支出

#### ・収益的収入

(税込 単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	予 算 額 に 比 べ 決 算 額 の 増 減	収 入 率
病 院 事 業 収 益	2,150,000,000	2,015,919,435	△ 134,080,565	93.8%
医 業 収 益	1,898,894,000	1,585,219,358	△ 313,674,642	83.5%
医 業 外 収 益	215,195,000	386,985,632	171,790,632	179.8%
訪 問 看 護 事 業 収 益	35,909,000	26,475,270	△ 9,433,730	73.7%
特 別 収 益	2,000	17,239,175	17,237,175	861,958.8%

#### ・収益的支出

(税込 単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	不 用 額	執 行 率
病 院 事 業 費 用	2,150,000,000	2,108,038,574	41,961,426	98.0%
医 業 費 用	2,043,938,160	1,941,368,806	102,569,354	95.0%
医 業 外 費 用	45,413,000	122,426,282	△ 77,013,282	269.6%
訪 問 看 護 事 業 費 用	47,818,000	37,703,827	10,114,173	78.8%
特 別 損 失	5,721,840	6,539,659	△ 817,819	114.3%
予 備 費	7,109,000	0	7,109,000	—

事業収益の決算額は 20億1,591万9,435円で、予算額に対する収入割合は 93.8%、事業費用の決算額は 21億803万8,574円で、支出割合は 98.0%となり、本年度も損失が発生している。

事業の運転資金に充てるため一般会計より、長期借入金 2億3,600万円を借り入れている。

## (2) 資本的収入及び支出

### ・資本的収入

(税込 単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減	収 入 率
資 本 的 収 入	964,394,000	799,938,000	△ 164,456,000	82.9%
企 業 債	794,500,000	635,000,000	△ 159,500,000	79.9%
他会計負担金	162,393,000	159,603,000	△ 2,790,000	98.3%
国庫補助金	0	0	0	—
県補助金	0	0	0	—
寄 附 金	0	0	0	—
固 定 資 産 売 却 代 金	0	5,335,000	5,335,000	—
他会計出資金	7,500,000	0	△ 7,500,000	—
長 期 借 入 金	1,000	0	△ 1,000	—

### ・資本的支出

(税込 単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	翌年度繰越額	不 用 額	執行率
資 本 的 支 出	1,120,572,000	964,101,018	18,550,000	137,920,982	86.0%
建 設 改 良 費	1,048,293,000	891,824,772	18,550,000	137,918,228	85.1%
企 業 債 償 還 金	72,279,000	72,276,246	0	2,754	99.9%

資本的収入の決算額は 7億9,993万8,000円で、予算額に対し 82.9%の収入割合となり、資本的支出の決算額は 9億6,410万1,018円で、支出割合は 86.0%となっている。この結果、資本的支出額が資本的収入額を上回り、1億6,416万3,018円の不足額を生じ、過年度分損益勘定留保資金、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額で補てんしている。

### 3 経営成績

#### (1) 収益

・事業収入

(単位：円)

区 分	令和4年度		令和3年度		増 減 額	前年度対比
		構成比		構成比		
医 業 収 益	1,576,411,897	78.6%	1,220,111,215	82.1%	356,300,682	129.2%
入 院 収 益	861,414,708	42.9%	669,878,664	45.1%	191,536,044	128.6%
外 来 収 益	466,544,863	23.3%	305,162,404	20.5%	161,382,459	152.9%
その他医業収益	248,452,326	12.4%	245,070,147	16.5%	3,382,179	101.4%
医 業 外 収 益	386,731,656	19.2%	238,047,866	16.0%	148,683,790	162.5%
受取利息及び配当金	4,234	0.0%	6,308	0.0%	△ 2,074	67.1%
他 会 計 負 担 金	167,500,000	8.4%	174,219,000	11.7%	△ 6,719,000	96.1%
他 会 計 補 助 金	22,919,000	1.1%	22,799,000	1.5%	120,000	100.5%
補 助 金	39,066,000	1.9%	15,419,530	1.0%	23,646,470	253.4%
患者外給食収益	774,700	0.0%	782,580	0.1%	△ 7,880	99.0%
その他医業外収益	2,861,887	0.1%	2,969,280	0.2%	△ 107,393	96.4%
長期前受金戻入	153,605,835	7.7%	21,852,168	1.5%	131,753,667	702.9%
訪問看護事業収益	26,448,468	1.3%	27,834,296	1.9%	△ 1,385,828	95.0%
訪問看護診療収益	10,643,856	0.5%	11,780,282	0.8%	△ 1,136,426	90.4%
訪問看護介護収益	13,112,006	0.7%	13,302,699	0.9%	△ 190,693	98.6%
訪問看護利用料収益	2,433,606	0.1%	2,451,303	0.2%	△ 17,697	99.3%
その他事業収益	0	—	41,012	0.0%	△ 41,012	皆減
他 会 計 負 担 金	0	—	0	—	0	—
他 会 計 補 助 金	259,000	0.0%	259,000	0.0%	0	100.0%
特 別 利 益	17,116,032	0.9%	185,225	0.0%	16,930,807	9,240.7%
固定資産売却益	0	—	0	—	0	—
過年度損益修正益	17,116,032	0.9%	185,225	0.0%	16,930,807	9,240.7%
その他特別利益	0	—	0	—	0	—
総 収 益	2,006,708,053	100.0%	1,486,178,602	100.0%	520,529,451	135.0%

総収益における各収益区分の構成比は、医業収益 78.6%、医業外収益は 19.2%、訪問看護事業収益は1.3%、特別利益は0.9%である。

医業収益で 3億5,630万682円(29.2%)、医業外収益で 1億4,868万3,790円(62.5%)それぞれ増加、訪問看護事業収益で 138万5,828円(5.0%)の減少となった。

総収益は 5億2,052万9,451円増加の 20億670万8,053円となっている。

・患者1人1日当たりの診療収益

(単位：円)

区 分	令和4年度	令和3年度	増 減 額	前年度対比
入 院	26,601	22,993	3,608	115.7%
外 来	8,219	7,863	356	104.5%

## (2) 費用

(単位：円)

区 分	令和4年度		令和3年度		増 減 額	前年度対比
		構成比		構成比		
医 業 費 用	1,898,269,406	90.2%	1,630,366,142	80.0%	267,903,264	116.4%
給 与 費	1,246,954,159	59.3%	1,127,622,935	55.3%	119,331,224	110.6%
材 料 費	221,806,231	10.5%	176,992,593	8.7%	44,813,638	125.3%
経 費	343,069,166	16.3%	255,798,792	12.6%	87,270,374	134.1%
減 価 償 却 費	61,885,496	2.9%	46,598,397	2.3%	15,287,099	132.8%
資 産 減 耗 費	0	—	0	—	0	—
研 究 研 修 費	24,554,354	1.2%	23,353,425	1.1%	1,200,929	105.1%
医 業 外 費 用	161,514,783	7.7%	368,989,365	18.2%	△ 207,474,582	43.8%
支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費	29,354,718	1.4%	7,444,282	0.4%	21,910,436	394.3%
雑 損 失	132,160,065	6.3%	361,545,083	17.8%	△ 229,385,018	36.6%
訪 問 看 護 事 業 費 用	37,531,846	1.8%	35,944,385	1.8%	1,587,461	104.4%
給 与 費	35,971,195	1.7%	34,172,431	1.7%	1,798,764	105.3%
材 料 費	0	—	0	—	0	—
経 費	1,387,688	0.1%	1,760,408	0.1%	△ 372,720	78.8%
研 究 研 修 費	162,874	0.0%	7,316	0.0%	155,558	2,226.3%
雑 損 失	10,089	0.0%	4,230	0.0%	5,859	238.5%
そ の 他 特 別 損 失	0	—	0	—	0	—
特 別 損 失	6,538,536	0.3%	258,621	0.0%	6,279,915	2,528.2%
固 定 資 産 売 却 損	5,871,390	0.3%	0	—	5,871,390	皆増
過 年 度 損 益 修 正 損	667,146	0.0%	258,621	0.0%	408,525	258.0%
そ の 他 特 別 損 失	0	—	0	—	0	—
予 備 費	0	—	0	—	0	—
予 備 費	0	—	0	—	0	—
総 費 用	2,103,854,571	100.0%	2,035,558,513	100.0%	68,296,058	103.4%

医業費用は、前年度に比べ 2億6,790万3,264円(16.4%)増加して、18億9,826万9,406円となっている。そのうち給与費の占める割合は総費用の 59.3%で、前年度と比べ 1億1,933万1,224円(10.6%)増加している。

医業外費用は、前年度と比べ 2億747万4,582円減少して、1億6,151万4,783円となっている。

訪問看護事業費用は 3,753万1,846円で、そのうち給与費の占める割合は総費用の 1.7%、前年度と比べ 179万8,764円(5.3%)増加している。

## (3) 経営収支

(単位：円)

区 分	令和4年度	令和3年度	増 減 額	前年度対比
総 収 益 (A)	2,006,708,053	1,486,178,602	520,529,451	135.0%
経常収益※1 (B)	1,989,592,021	1,485,993,377	503,598,644	133.9%
医 業 収 益 (C)	1,576,411,897	1,220,111,215	356,300,682	129.2%
総 費 用 (D)	2,103,854,571	2,035,558,513	68,296,058	103.4%
経常費用※2 (E)	2,097,316,035	2,035,299,892	62,016,143	103.0%
医 業 費 用 (F)	1,898,269,406	1,630,366,142	267,903,264	116.4%
純 利 益 (△純損失) (A)-(D)	△ 97,146,518	△ 549,379,911	452,233,393	17.7%
経常利益 (△経常損失) (B)-(E)	△ 107,724,014	△ 549,306,515	441,582,501	19.6%
医 業 利 益 (△医業損失) (C)-(F)	△ 321,857,509	△ 410,254,927	88,397,418	78.5%
総収支比率 (A)/(D)	95.4%	73.0%	22.4ポイント	/
経常収支比率 (B)/(E)	94.9%	73.0%	21.9ポイント	
医業収支比率 (C)/(F)	83.0%	74.8%	8.2ポイント	

※1 経常収益＝医業収益＋医業外収益＋訪問看護事業収益

※2 経常費用＝医業費用＋医業外費用＋訪問看護事業費用

令和4年度の経営収支は、総収益 20億670万8,053円に対し総費用 21億385万4,571円で、差引き 9,714万6,518円の純損失となっている。総収支比率は 95.4%で、前年度を 22.4ポイント上回っている。

## (4) 医療費患者自己負担金に係る未収金の状況

(単位：円)

区 分	令和4年度	令和3年度	増 減 額	前年度 対 比
過 年 度 分	2,981,542	3,586,873	△ 605,331	83.1%
現 年 度 分	8,549,071	6,645,194	1,903,877	128.7%
合 計	11,530,613	10,232,067	1,298,546	112.7%

当年度の未収額については、入院患者の3月診療分が含まれているため多額になっているが、大部分は次年度4月以降に収納される見込みである。患者自己負担金に係る未収金を前年度と比べると、過年度分は60万5,331円(16.9%)減少し、現年度分は190万3,877円(28.7%)増加している。

## (5) 経営分析

## ・人件費

(単位：円)

区 分	令和4年度	令和3年度	令和2年度	算 式
職 員 数	121人	111人	104人	年度末職員数
人 件 費	1,246,954,159	1,127,622,935	1,037,461,326	
人件費対総費用比率	59.3%	55.4%	63.0%	$\frac{\text{人件費}}{\text{総費用}} \times 100$
人件費対医業収益比率	79.1%	92.4%	99.2%	$\frac{\text{人件費}}{\text{医業収益}} \times 100$

## ・減価償却費

(単位：円)

区 分	令和4年度	令和3年度	令和2年度	算 式
減 価 償 却 費	61,885,496	46,598,397	53,619,209	
減価償却費対総費用比率	2.9%	2.3%	3.3%	$\frac{\text{減価償却費}}{\text{総費用}} \times 100$
減価償却費対医業収益比率	3.9%	3.8%	5.1%	$\frac{\text{減価償却費}}{\text{医業収益}} \times 100$
有 形 固 定 資 産	6,166,214,475	5,427,346,592	1,892,834,167	年度末現在

## ・支払利息

(単位：円)

区 分	令和4年度	令和3年度	令和2年度	算 式
支 払 利 息	29,354,718	7,444,282	3,006,948	
支払利息対総費用比率	1.4%	0.4%	0.2%	$\frac{\text{支払利息}}{\text{総費用}} \times 100$
支払利息対医業収益比率	1.9%	0.6%	0.3%	$\frac{\text{支払利息}}{\text{医業収益}} \times 100$
企 業 債	4,176,044,441	3,613,320,687	832,242,342	年度末企業債未償還残高

## 4 財政状況

### (1) 資産の状況

(単位：円)

区 分		令和4年度	令和3年度	増 減 額
資 産 の 部	固 定 資 産	6,166,214,475	5,427,346,592	738,867,883
	有形固定資産	6,166,214,475	5,427,346,592	738,867,883
	土地	403,809,572	403,809,572	0
	建物	4,861,664,434	452,035,771	4,409,628,663
	構築物	20,395,968	8,382,612	12,013,356
	器械備品	879,915,949	246,999,517	632,916,432
	車両	428,552	628,194	△ 199,642
	建設仮勘定	0	4,315,490,926	△ 4,315,490,926
	流 動 資 産	366,211,809	2,035,661,387	△ 1,669,449,578
	現金及び預金	121,947,255	1,824,886,633	△ 1,702,939,378
	未収金	237,897,256	203,199,159	34,698,097
	貯蔵品	6,112,437	7,453,404	△ 1,340,967
	前払費用	254,861	122,191	132,670
	仮払金	0	0	0
資 産 合 計	6,532,426,284	7,463,007,979	△ 930,581,695	

資産合計は 65億3,242万6,284円で、前年度と比較し 9億3,058万1,695円減少している。このうち、固定資産は 7億3,886万7,883円増加している。これは、器械備品による増が主である。

流動資産は、現金及び預金の減少により 16億6,944万9,578円の減少となっている。

## (2) 負債及び資本の状況

(単位：円)

区 分		令和4年度	令和3年度	増 減 額
負 債 の 部	固 定 負 債	4,662,599,028	3,861,044,441	801,554,587
	企業債	4,106,599,028	3,541,044,441	565,554,587
	他会計借入金	556,000,000	320,000,000	236,000,000
	流 動 負 債	212,895,527	1,853,882,456	△ 1,640,986,929
	企業債	69,445,413	72,276,246	△ 2,830,833
	未払金	63,527,865	1,710,622,155	△ 1,647,094,290
	賞与引当金	77,446,000	68,386,000	9,060,000
	その他流動負債	2,476,249	2,598,055	△ 121,806
	繰 延 収 益	347,994,352	341,997,187	5,997,165
	長期前受金	1,124,152,522	1,005,699,377	118,453,145
	長期前受金収益化累計額	△ 776,158,170	△ 663,702,190	△ 112,455,980
	負 債 合 計	5,223,488,907	6,056,924,084	△ 833,435,177
資 本 の 部	資 本 金	1,346,668,489	1,346,668,489	0
	資本金	1,346,668,489	1,346,668,489	0
	剰 余 金	△ 37,731,112	59,415,406	△ 97,146,518
	資本剰余金	893,262,516	893,262,516	0
	寄付金	1,100,000	1,100,000	0
	補助金	800,877,834	800,877,834	0
	その他資本剰余金	91,284,682	91,284,682	0
	利益剰余金	△ 930,993,628	△ 833,847,110	△ 97,146,518
	減債積立金	0	0	0
	建設改良積立金	60,000,000	60,000,000	0
	利益積立金	10,000,000	10,000,000	0
	当年度未処分利益剰余金 (△は 未処理欠損金)	△ 1,000,993,628	△ 903,847,110	△ 97,146,518
資 本 合 計	1,308,937,377	1,406,083,895	△ 97,146,518	
負 債 及 び 資 本 の 合 計	6,532,426,284	7,463,007,979	△ 930,581,695	

負債合計は 52億2,348万8,907円である。固定負債が 8億155万4,587円の増加、流動負債が 16億4,098万6,929円の減少となっており、差し引き 8億3,343万5,177円減少している。

資本合計は 13億893万7,377円で、9,714万6,518円の減少となっている。

負債及び資本の合計は 65億3,242万6,284円となり、前年度に比べ 9億3,058万1,695円減少している。

## (3) キャッシュ・フローの状況

(単位:円)

区 分	令和4年度	令和3年度	増 減 額
1 業務活動によるキャッシュ・フロー			
当年度純利益 (△は純損失)	△ 97,146,518	△ 549,379,911	452,233,393
減価償却費	61,885,496	46,598,397	15,287,099
賞与引当金等の増減額 (△は減少)	9,060,000	△ 2,073,000	11,133,000
固定資産除却損	0	0	0
受取利息及び受取配当金	△ 4,234	△ 6,308	2,074
長期前受金戻入額	△ 153,605,835	△ 21,852,168	△ 131,753,667
支払利息	29,354,718	7,444,282	21,910,436
固定資産売却損益 (△は増加)	5,871,390	0	5,871,390
未収金の増減額 (△は増加)	△ 27,488,097	15,360,153	△ 42,848,250
たな卸資産の増減額 (△は増加)	1,340,967	△ 2,637,736	3,978,703
前払費用の増減額 (△は増加)	0	0	0
前払金の増減額 (△は増加)	△ 132,670	0	△ 132,670
仮払金の増減額 (△は増加)	0	0	0
未払金の増減額 (△は減少)	7,991,410	4,386,707	3,604,703
その他流動負債の増減額 (△は減少)	△ 121,806	△ 1,542,875	1,421,069
小 計	△ 162,995,179	△ 503,702,459	340,707,280
利息及び配当金の受取額	4,234	6,308	△ 2,074
利息の支払額	△ 29,354,718	△ 7,444,282	△ 21,910,436
業務活動によるキャッシュ・フロー	△ 192,345,663	△ 511,140,433	318,794,770
2 投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得による支出	△ 2,466,560,469	△ 2,165,083,422	△ 301,477,047
有形固定資産の売却による収入	4,850,000	0	4,850,000
国庫補助金による収入	0	1,450,000	△ 1,450,000
県補助金による収入	0	1,231,470	△ 1,231,470
一般会計負担金による収入	152,393,000	113,257,000	39,136,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,309,317,469	△ 2,049,144,952	△ 260,172,517
3 財務活動によるキャッシュ・フロー			
建設改良等の財源に充てるための 企業債による収入	635,000,000	2,854,900,000	△ 2,219,900,000
建設改良等の財源に充てるための 企業債の償還による支出	△ 72,276,246	△ 73,821,655	1,545,409
その他の他会計借入金による収入	236,000,000	320,000,000	△ 84,000,000
出資金による収入	0	953,200,000	△ 953,200,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	798,723,754	4,054,278,345	△ 3,255,554,591
資金増減額 (△は減少)	△ 1,702,939,378	1,493,992,960	△ 3,196,932,338
資金期首残高	1,824,886,633	330,893,673	1,493,992,960
資金期末残高	121,947,255	1,824,886,633	△ 1,702,939,378

業務活動によるキャッシュ・フローは 1億9,234万5,663円の資金流出、投資活動によるキャッシュ・フローは 23億931万7,469円の資金流出、財務活動によるキャッシュ・フローは7億9,872万3,754円の資金流入となり、本年度における資金減少額は 17億293万9,378円、資金期末残高は 1億2,194万7,255円となっている。

## (4) 財務比率等

(単位：%)

区 分	令和4年度	令和3年度	令和2年度	算 式
① 自己資本構成比率	25.4	23.4	51.1	$\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}}{\text{負債資本合計}} \times 100$
② 固定比率	372.1	310.5	151.4	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}} \times 100$
③ 流動比率	172.0	109.8	126.5	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$
④ 企業債元金償還金対減価償却額比率	116.8	158.4	37.9	$\frac{\text{建設改良のための企業債元金償還金}}{\text{当年度減価償却費}} \times 100$
⑤ 不良債務比率	△ 9.7	△ 14.9	△ 11.1	$\frac{\text{流動負債} - \text{流動資産}}{\text{医業収益}} \times 100$

- ① 自己資本構成比率は、総資本中に占める自己資本（資本金＋剰余金＋評価差額等＋繰延収益）の割合を示すもので、その比率が大きいほど経営の健全性が高いといえる。当年度は25.4%で、前年度を2.0ポイント上回っている。
- ② 固定比率は、固定資産が自己資本によってまかなわれるべき割合を示す指数で、経営の安全性を確保するためには100%以下が望ましい。当年度は372.1%で、前年度を61.6ポイント上回っている。
- ③ 流動比率は、流動負債の支払能力及び運転資金の状態を示すもので、理想比率は200%以上である。当年度は172%で理想比率を下回っている。
- ④ 企業債元金償還金対減価償却額比率は、企業債償還額とその主要償還財源である減価償却費を比較したもので、企業債償還能力を示し、この比率が低いほど償還能力は高いと言える。
- ⑤ 不良債務比率は、医業収益に占める不良債務額で、この比率が低いほど経営状態は良好と言える。

## Ⅱ 西香川病院事業会計

### 1 事業の概要

病院運営にあたっては、一般社団法人三豊・観音寺市医師会を指定管理者として運営を行っている。また、会計事務の効率化を図るため、指定管理者が直接料金収受を行う利用料金制を導入している。

#### (1) 業務の状況

##### ・入院外来患者数

(単位：人)

区 分		令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	前年度比較	前年度対比
入 院	延 人 数	51,344	51,704	52,204	53,256	△ 360	99.3%
	1 日 平 均	140.6	141.7	143.0	145.5	△ 1.1	99.2%
外 来	延 人 数	22,475	24,007	24,148	26,438	△ 1,532	93.6%
	1 日 平 均	81.2	87.4	87.4	110.2	△ 6.2	92.9%

病院施設の状況は、診療科 3科及びデイケア、病床数 150床で、入院患者延人数は前年度と比較して360人(0.7%)減少、外来患者延人数も 1,532人(6.4%)減少している。

##### ・診療科別入院患者数

(単位：人)

診療科	年度	令和4年度		令和3年度		前年度比較 延患者数	前年度 対 比
		延患者数	構成比率	延患者数	構成比率		
精 神 科		21,108	41.1%	20,828	40.3%	280	101.3%
療 養		30,236	58.9%	30,876	59.7%	△ 640	97.9%
合 計		51,344	100.0%	51,704	100.0%	△ 360	99.3%

入院患者数を診療科別に前年度と比較すると、精神科で 280人(1.3%)増加、療養で 640人(2.1%)減少している。全体では前年度に比べ、360人(0.7%)の減少となっている。

・診療科別外来患者数

(単位：人)

診療科	令和4年度		令和3年度		前年度比較	
	延患者数	構成比率	延患者数	構成比率	延患者数	前年度対比
内 科	2,877	12.8%	2,989	12.4%	△ 112	96.3%
リ ハ ビ リ 科	1,359	6.0%	1,996	8.3%	△ 637	68.1%
精 神 科	5,428	24.2%	5,518	23.0%	△ 90	98.4%
デ イ ケ ア	12,811	57.0%	13,504	56.3%	△ 693	94.9%
合 計	22,475	100.0%	24,007	100.0%	△ 1,532	93.6%

当年度の年間外来患者数は、前年度に比べ 1,532人(6.4%)減の2万2,475人となっている。診療科別の比較では、内科で112人(3.7%)、リハビリ科で 637人(31.9%)、精神科で 90人(1.6%)、デイケアで693人(5.1%)減少している。

・病床利用状況

(単位：人)

区 分	令和4年度		令和3年度		前年度比較	
	1日平均患者数	病床利用率	1日平均患者数	病床利用率	1日平均患者数	病床利用率
療養病床 90 床	82.8	92.0%	84.6	94.0%	△ 1.8	△ 2.0ポイント
精神病床 60 床	57.8	96.4%	57.1	95.2%	0.7	1.2ポイント
合 計 150 床	140.6	93.8%	141.7	94.4%	△ 1.1	△ 0.6ポイント

病床利用率は、精神病床で微増、療養病床で微減している。1日平均患者数は1.1人減少している。

## 2 予算の執行状況

### (1) 収益的収入及び支出

#### ・収益的収入

(税込 単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	予 算 額 に 比 べ 決 算 額 の 増 減	収 入 率
病 院 事 業 収 益	218,777,000	218,497,626	△ 279,374	99.9%
医 業 収 益	1,800,000	1,512,500	△ 287,500	84.0%
医 業 外 収 益	216,735,000	216,742,460	7,460	100.0%
特 別 利 益	242,000	242,666	666	100.3%

#### ・収益的支出

(税込 単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	不 用 額	執 行 率
病 院 事 業 費 用	218,777,000	181,877,297	36,899,703	83.1%
医 業 費 用	180,186,000	175,809,042	4,376,958	97.6%
医 業 外 費 用	6,070,000	6,068,255	1,745	100.0%
特 別 損 失	3,000	0	3,000	—
予 備 費	32,518,000	0	32,518,000	—

事業収益の決算額は 2億1,849万7,626円で、予算額に対する収入割合は 99.9%、事業費用の決算額は 1億8,187万7,297円で、支出割合は 83.1%となり、本年度は利益が発生している。

## (2) 資本的収入及び支出

### ・資本的収入

(税込 単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減	収 入 率
資 本 的 収 入	81,217,000	81,117,000	△ 100,000	99.9%
企 業 債	60,000,000	60,000,000	0	100.0%
他 会 計 負 担 金	18,066,000	18,066,000	0	100.0%
基 金 負 担 金	3,051,000	3,051,000	0	100.0%
寄 附 金	100,000	0	△ 100,000	—

### ・資本的支出

(税込 単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	不 用 額	執 行 率
資 本 的 支 出	119,664,000	119,663,284	716	99.9%
建 設 改 良 費	63,052,000	63,051,620	380	99.9%
企 業 債 償 還 金	56,602,000	56,601,935	65	99.9%
基 金 積 立 金	10,000	9,729	271	97.3%

資本的収入の決算額は 8,111万7,000円で、予算額に対し 99.9%の収入割合となり、資本的支出の決算額は 1億1,966万3,284円で、支出割合は 99.9%となっている。この結果、資本的支出額が資本的収入額を上回り、3,854万6,284円の不足額を生じ、過年度分損益勘定留保資金で補てんしている。

### 3 経営成績

#### (1) 収 益

(単位：円)

区 分	令和4年度		令和3年度		増 減 額	前年度対比
		構成比		構成比		
医 業 収 益	1,512,500	0.7%	1,643,400	0.8%	△ 130,900	92.0%
入 院 収 益	0	—	0	—	0	—
外 来 収 益	0	—	0	—	0	—
その他医業収益	1,512,500	0.7%	1,643,400	0.8%	△ 130,900	92.0%
医 業 外 収 益	216,742,460	99.2%	215,440,395	99.2%	1,302,065	100.6%
受取利息及び配当金	15,788	0.0%	15,971	0.0%	△ 183	98.9%
他 会 計 負 担 金	183,786,000	84.1%	182,630,000	84.1%	1,156,000	100.6%
他 会 計 補 助 金	0	—	0	—	0	—
患者外給食収益	0	—	0	—	0	—
その他医業外収益	25,940	0.0%	30,020	0.0%	△ 4,080	86.4%
長期前受金戻入	32,914,732	15.1%	32,764,404	15.1%	150,328	100.5%
特 別 利 益	242,666	0.1%	0	—	242,666	皆増
固定資産売却益	0	—	0	—	0	—
過年度損益修正益	242,666	0.1%	0	—	242,666	皆増
その他特別利益	0	—	0	—	0	—
総 収 益	218,497,626	100.0%	217,083,795	100.0%	1,413,831	100.7%

医業収益は、指定管理者が直接料金收受を行う「利用料金制」を導入しているため、入院・外来収益はなく、その他医業収益(文書料収益) 151万2,500円のみである。医業外収益は、前年度に比べ 130万2,065円(0.6%)の増加となっている。総収益は前年度収益を 141万3,831円(0.7%)上回っている。

## (2) 費用

(単位：円)

区 分	令和4年度		令和3年度		増 減 額	前年度対比
		構成比		構成比		
医 業 費 用	175,809,042	96.7%	178,260,216	96.3%	△ 2,451,174	98.6%
給 与 費	0	—	0	—	0	—
材 料 費	0	—	0	—	0	—
経 費	97,416,762	53.6%	104,614,439	56.5%	△ 7,197,677	93.1%
減 価 償 却 費	76,033,455	41.8%	73,280,842	39.6%	2,752,613	103.8%
資 産 減 耗 費	2,358,825	1.3%	364,935	0.2%	1,993,890	646.4%
研 究 研 修 費	0	—	0	—	0	—
医 業 外 費 用	6,068,255	3.3%	6,860,443	3.7%	△ 792,188	88.5%
支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費	6,068,255	3.3%	6,860,443	3.7%	△ 792,188	88.5%
雑 損 失	0	—	0	—	0	—
特 別 損 失	0	—	0	—	0	—
過 年 度 損 益 修 正 損	0	—	0	—	0	—
そ の 他 特 別 損 失	0	—	0	—	0	—
予 備 費	0	—	0	—	0	—
予 備 費	0	—	0	—	0	—
総 費 用	181,877,297	100.0%	185,120,659	100.0%	△ 3,243,362	98.2%

医業費用は、前年度に比べ 245万1,174円(1.4%)減少して、1億7,580万9,042円となっている。

医業外費用は、前年度と比べ 79万2,188円(11.5%)減少して、606万8,255円となっている。

総費用は 1億8,187万7,297円で、前年度より 324万3,362円減少している。

## (3) 経営収支

(単位：円)

区 分	令和4年度	令和3年度	増 減 額	前年度対比
総 収 益 (A)	218,497,626	217,083,795	1,413,831	100.7%
経常収益※1 (B)	218,254,960	217,083,795	1,171,165	100.5%
医 業 収 益 (C)	1,512,500	1,643,400	△ 130,900	92.0%
総 費 用 (D)	181,877,297	185,120,659	△ 3,243,362	98.2%
経常費用※2 (E)	181,877,297	185,120,659	△ 3,243,362	98.2%
医 業 費 用 (F)	175,809,042	178,260,216	△ 2,451,174	98.6%
純 利 益 (△純損失) (A)-(D)	36,620,329	31,963,136	4,657,193	114.6%
経 常 利 益 (△経常損失) (B)-(E)	36,377,663	31,963,136	4,414,527	113.8%
医 業 利 益 (△医業損失) (C)-(F)	△ 174,296,542	△ 176,616,816	2,320,274	98.7%
総収支比率 (A)/(D)	120.1%	117.3%	2.8ポイント	

※1 経常収益＝医業収益＋医業外収益

※2 経常費用＝医業費用＋医業外費用

令和4年度の経営収支は、総収益 2億1,849万7,626円に対し総費用 1億8,187万7,297円で、差引き 3,662万329円の純利益となっている。総収支比率は 120.1%で、前年度を 2.8ポイント上回っている。

#### 4 財政状況

##### (1) 資産の状況

(単位：円)

区 分		令和4年度	令和3年度	増 減 額
資 産 の 部	固 定 資 産	1,483,760,547	1,501,899,812	△ 18,139,265
	有形固定資産	1,473,288,971	1,488,386,965	△ 15,097,994
	土地	490,000,000	490,000,000	0
	建物	719,197,296	763,300,544	△ 44,103,248
	構築物	160,898,966	182,636,283	△ 21,737,317
	器械備品	94,874,182	44,245,641	50,628,541
	車両	8,318,527	8,204,497	114,030
	リース資産(有形)	0	0	0
	投資	10,471,576	13,512,847	△ 3,041,271
	基金	10,471,576	13,512,847	△ 3,041,271
	流 動 資 産	727,518,101	680,033,338	47,484,763
	現金及び預金	727,338,961	679,911,908	47,427,053
	未収金	179,140	121,430	57,710
資 産 合 計	2,211,278,648	2,181,933,150	29,345,498	

資産合計は22億1,127万8,648円で、前年度と比較し 2,934万5,498円増加している。

このうち、固定資産は 1,813万9,265円減少している。これは、減価償却によるものである。

流動資産は、現金及び預金の増加により 4,748万4,763円の増加となっている。

## (2) 負債及び資本の状況

(単位：円)

区 分		令和4年度	令和3年度	増 減 額
負 債 の 部	固 定 負 債	346,893,848	361,959,904	△ 15,066,056
	企業債	346,893,848	361,959,904	△ 15,066,056
	流 動 負 債	177,365,135	154,725,178	22,639,957
	企業債	75,066,056	56,601,935	18,464,121
	リース債務	0	0	0
	未払金	102,299,079	98,123,243	4,175,836
	繰 延 収 益	323,127,675	356,042,407	△ 32,914,732
	長期前受金	1,284,434,414	1,290,854,414	△ 6,420,000
	受贈財産評価額	993,668,217	993,668,217	0
	補助金	290,766,197	297,186,197	△ 6,420,000
	長期前受金収益化累計額	△ 961,306,739	△ 934,812,007	△ 26,494,732
	受贈財産評価額	△ 775,646,335	△ 755,795,038	△ 19,851,297
	補助金	△ 185,660,404	△ 179,016,969	△ 6,643,435
	負 債 合 計	847,386,658	872,727,489	△ 25,340,831
資 本 の 部	資 本 金	0	0	0
	資本金（自己）	0	0	0
	剰 余 金	1,363,891,990	1,309,205,661	54,686,329
	資本剰余金	796,495,300	778,429,300	18,066,000
	受贈財産評価額	392,000,000	392,000,000	0
	補助金	0	0	0
	寄附金	92,836,300	92,836,300	0
	その他資本剰余金	311,659,000	293,593,000	18,066,000
	利益剰余金	567,396,690	530,776,361	36,620,329
	減債積立金	470,676,072	470,676,072	0
	利益積立金	28,137,153	28,137,153	0
	建設改良積立金	31,963,136	0	31,963,136
	当年度未処分利益剰余金	36,620,329	31,963,136	4,657,193
資 本 合 計	1,363,891,990	1,309,205,661	54,686,329	
負 債 及 び 資 本 の 合 計	2,211,278,648	2,181,933,150	29,345,498	

負債合計は 8億4,738万6,658円で、固定負債、繰延収益の減少により2,534万831円減少している。資本合計は13億6,389万1,990円で、剰余金が 5,468万6,329円増加している。

負債及び資本の合計は 22億1,127万8,648円となり、前年度に比べ 2,934万5,498円増加している。

## (3) キャッシュ・フローの状況

(単位：円)

区 分	令和4年度	令和3年度	増 減 額
1 業務活動によるキャッシュ・フロー			
当年度純利益（△は純損失）	36,620,329	31,963,136	4,657,193
減価償却費	76,033,455	73,280,842	2,752,613
長期前受金戻入額	△ 32,914,732	△ 32,764,404	△ 150,328
特別利益	△ 242,666	0	△ 242,666
資産減耗費	2,358,825	364,935	1,993,890
特別損失	0	0	0
受取利息及び受取配当金	△ 15,788	△ 15,971	183
支払利息	6,068,255	6,860,443	△ 792,188
未収金の増減額（△は増加）	△ 57,710	61,470	△ 119,180
未払金の増減額（△は減少）	4,175,836	△ 9,036,211	13,212,047
小 計	92,025,804	70,714,240	21,311,564
利息及び配当金の受取額	15,788	15,971	△ 183
利息の支払額	△ 6,068,255	△ 6,860,443	792,188
業務活動によるキャッシュ・フロー	85,973,337	63,869,768	22,103,569
2 投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得による支出	△ 63,051,620	△ 27,034,575	△ 36,017,045
国庫補助金による収入	0	1,644,000	△ 1,644,000
一般会計負担金による収入	18,066,000	17,166,000	900,000
基金負担金	3,051,000	720,000	2,331,000
寄付金	0	1,000,000	△ 1,000,000
基金積立金	△ 9,729	△ 10,240	511
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 41,944,349	△ 6,514,815	△ 35,429,534
3 財務活動によるキャッシュ・フロー			
建設改良費等の財源に充てるための 企業債による収入	60,000,000	25,200,000	34,800,000
建設改良費等の財源に充てるための 企業債の償還による支出	△ 56,601,935	△ 54,198,145	△ 2,403,790
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,398,065	△ 28,998,145	32,396,210
資金増減額（△は減少）	47,427,053	28,356,808	19,070,245
資金期首残高	679,911,908	651,555,100	28,356,808
資金期末残高	727,338,961	679,911,908	47,427,053

業務活動によるキャッシュ・フローは 8,597万3,337円の資金流入、投資活動によるキャッシュ・フローは 4,194万4,349円の資金流出、財務活動によるキャッシュ・フローは 339万8,065円の資金流入となり、本年度における資金増加額は 4,742万7,053円、資金期末残高は 7億2,733万8,961円となっている。

## 第6 まとめ

三豊市病院事業会計は、令和4年5月に移転新築した市直営の「みとよ市民病院」（旧永康病院）と公設民営（指定管理者制度）による「西香川病院」から構成されている。

いずれも経営の基本理念となるのは、健全な病院経営の継続と公共の福祉の増進であることに変わりはなく、広域的な観点からも、保健、福祉、医療の各機関との連携による経営の効率化が求められている。現時点においては、それぞれの病院の特色、機能等を最大限に生かし、創意工夫による経営の健全化に取り組んでいる。今後も市民の健康保持、医療環境の充実に努め、福祉の増進に寄与されたい。

### 【業務および経営状況等について】

#### ○ みとよ市民病院：公設公営

当年度業務の実績については、入院患者数は延べ3万2,383人（1日平均89人）で前年度に比べ3,249人、外来患者数は延べ5万6,761人（1日平均232人）で前年度に比べ1万7,953人とそれぞれ大きく増加した。

この要因は、令和4年5月から新病院「みとよ市民病院」に移転新築、常勤医師の1名増員によるところが大きく、入院収益、外来収益が増加し、入院と外来それぞれの患者1人1日当たりの診療収益も増加した。

訪問看護ステーションでは地域の在宅医療等の充実にすすめているが訪問看護事業収益は前年に比べ減少し、費用は増加している。

事業収益20億670万8,053円に対し、事業費用21億385万4,571円であり、この結果、9,714万6,518円の純損失を生じている。

また、当年度の収益的収支は、医業収益15億7,641万1,897円に対し、医業費用18億9,826万9,406円であり、医業本来の収支状況を示す医業収支比率（医業収益÷医業費用×100）は83.0%と、前年度を8.2ポイント上回る結果となった。

一方、資本的収支については、企業債や他会計出資金等の収入合計7億9,993万8,000円に対し、資本的支出は、医療機器の購入、企業債償還金等により9億6,410万1,018円となっている。差引き不足額1億6,416万3,018円は、過年度分損益勘定留保資金8,429万8,015円、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額7,986万5,003円で補てんしている。

#### ○ 西香川病院：指定管理者 一般社団法人三豊・観音寺市医師会

当年度業務の実績については、延べ入院患者数は5万1,344人（1日平均141人）で前年度に比べ360人、延べ外来患者数は2万2,475人（1日平均81人）で前年度に比べ1,532人、それぞれ減少した。

当年度の経営収支は、事業収益が2億1,849万7,626円と前年度に比べ0.7%増加し、事業費用は1億8,187万7,297円と前年度に比べ1.8%減少した。この結果、純利益3,662万329円が生じ、前年度に比べて465万7,193円、率にして、14.6%の増となった。

また、資本的収支については、資本的収入 8,111 万 7,000 円に対し、資本的支出は、医療機器など備品購入、企業債償還金等による 1 億 1,966 万 3,284 円となり、不足する額 3,854 万 6,284 円は過年度分損益勘定留保資金により補てんしている。

## 【総 論】

医療を取り巻く環境は、地域内人口の減少・高齢化の進展や経済の停滞、医療技術の進歩などを背景に変化していく中で、大変厳しい状況にある。特に病院経営においては、多様化するニーズに対し、利用者の視点に立った質の高い医療を安定的に提供する体制の確立・強化が課題となっている。本事業における企業債の未償還残高については、みとよ市民病院、西香川病院ともに医療機器の購入により前年度を上回った。

令和 4 年度、みとよ市民病院では 5 月の移転開業準備に加え、引き続き、新型コロナウイルス等の感染症対策として発熱外来の設置や抗原検査、PCR 検査、オンライン診療を実施し、西香川病院においても感染拡大を防ぐための様々な工夫や努力をする等、医療従事者はじめ病院関係者が一丸となって尽力されたことについて、深く感謝申し上げます。

ウィズ・コロナ社会において、「新しい生活様式」を実践している中、今後も新型コロナウイルス感染症など新興感染症等は病院経営に影響を及ぼすと思われる。また、病院事業環境は、令和 6 年度から施行予定の「医師の働き方改革」により時間外労働が規制され、医師の確保など、さらに厳しくなることが予測される。現在策定している「経営強化プラン」において、地域で果たすべき役割を明確化し、持続可能な地域医療提供体制を確保するため、病院事業の効率的な運営を目指して努力されることを望む。

みとよ市民病院では開院後も令和 5 年 7 月から小児科、8 月から内分泌・糖尿病の診察日を増やしている。今後とも、西香川病院と共に、地域における中核病院として、他の医療機関等との連携を密に図り、地域住民が求める安全で満足度の高い良質な医療を持続的に提供していただけるよう努力されたい。また、そのために施設・設備の整備はもとより、医療従事者が安心して診療に従事でき、職員一人ひとりの意欲と達成感が醸成されるよう、環境の変化に対応した効率的な病院経営に取り組まされたい。

さらに、地域住民に信頼され、親しまれ、選ばれる病院となれるよう、医師確保による診療体制の強化を図るなど、様々な課題に取り組みながら、将来の展望を描き、安心で豊かな地域社会の実現のため、一層貢献されることを期待する。

令和4年度

決算審査資料

## 繰越事業の状況

(単位：円)

区 分	事業名	翌年度繰越額	左の財源内訳		
			国・県 支出金	企業債	その他
1	みとよ市民病院 資本的支出	18,550,000	0	13,900,000	4,650,000
合 計		18,550,000	0	13,900,000	4,650,000